

# 文部科学省 高等教育の修学 支援新制度の在り方検討会議 ヒアリング資料

---

日本若者協議会 関西支部代表 壺井健智  
(大阪市立大学法学部二回生)

# 地方への影響

---

- ・今回の機関要件厳格化の影響は特に地方に響くのではないか  
→地方と都市部の比重や現状を考慮  
    専門学校の地方への配慮事項を大学にも同程度適用するなど
- ・地方で〇〇を学びたいけれど、大学がない
- ・その地域において学ぶ場が将来的になくなる
- ・大学の有無は地方活性化に影響
- ・下宿や長距離通学となるとかえって経済負担に

# 下宿生にとっての経済的負担

---

僕の通っている大阪市立大学(現在は大阪公立大学)では、比較的親元を離れて下宿している学生が多いのですが、所属していた部活でも4割程度が下宿生でした。公立大学ということもあり、学費減免などの措置も年収要件などはあれど、国の支援と基準が広い大阪府独自の支援の両方が受けられるなど、幅広く学費減免などの支援が受けられます。しかし下宿生活では、当然生活や家計のことを自分で考えなければならない中、特に何か経済的に困ったことがあった際に自分ですぐ対処ができないことがあります。大きなけがや病気にかかった際にすぐに大金を用意できなかつたり、その月が厳しい時にかなりの無理をするケースが多くあります。

# ケース1

---

中学からの下宿している友人が3日ほど大学にも来ず突然連絡がつかなくなり、家に行ってみたところ、足が腫れており、動けない状態でした。すぐ病院に付き添ったのですが、手術一步手前の酷いしもやけ状態とのことでした。彼曰く、今月厳しいので医者に行くお金がなく、放っておいたらどんどんひどくなっていったそうです。家庭が貧しくなくても、その子が下宿生の場合このようなケースも現実起こりえます。

# ケース2

---

高校の友人で、大阪を離れて下宿している人がいるのですが、親からの仕送りが一切なく生活費や交遊費を自分で稼ぐために大学の講義を削ってアルバイトをしています。入りたかった部活動も費用が掛かることから諦めたと聞きました。大学生において生活費以外の支出もかなり大事な出費ですが、そういったものを削らないと満足に生活できていない状況です。「これやったら自分の好きなところ無理していかなんでも、大阪の大学行った方がよかったかもな」と言っていたのが印象的でした。

# 学生にわかりやすく

---

- ・現状、制度の内容を知らない学生も  
→制度内容を知らないまま進学し、公的支援を受けられない可能性
- ・修学支援制度並びに機関要件の啓発  
→主に修学支援制度については、高校を通じて生徒への説明などを
- ・文系進学志望学生にとって不公平とならないかという懸念

# 支援制度を知る機会を進学前に

---

同じ大学に通っている友人ですが、大学入学の際、修学支援制度を受けられることを知らず、受付締め切り直前にそのことに気づきました。そこで、私も友人と一緒に修学支援制度についての書類や案内に目を通し、役所などで書類をもらいに行きましたが、締め切りを過ぎてしまいました。

そもそもなぜ気が付かなかったか。私もその友人も高校まではその支援の対象外でしたが、大学では支援を受けられる年収要件などが異なっており、制度の内容自体をあまりよく把握していなかったのです。高校でも大学の奨学金などの案内はビラで配られたりなどしていましたが、直接修学支援制度や奨学金の説明などはなく、大学入学前の事前知識がほぼゼロでした。

# 影響への評価や啓発を

---

- ・大学は「学ぶ場」としての機能だけではない  
→「学ぶことの支援」は前提として、下宿生など実情にも対応を
- ・機関要件の厳格化や修学支援制度の変更  
→今後の学生の進路に直結 地方の大学への影響
- ・現状以上に丁寧な説明や啓発を進学前の段階に  
→制度を実行するのではなく、活用してもらうために
- ・機関要件の厳格化や修学支援制度による影響の評価をさらに細かく検証を